

# 9月全学連大会へ!

2016年8月19日  
No.397

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 8・14集会での動労水戸・辻川副委員長アピール!

11月の国際連帯闘争に向けて、来月ドイツに行きます。

皆さんと共有したいことの一つに、いまベルリンが大変な攻防に入っています。独メルケル政権とキリスト教民主同盟、それと社会民主党。なぜキリスト教民主同盟なのか。やっぱり第二次世界大戦前に国際共産主義運動がスターリン主義によって敗北させられる。ドイツではヒトラー政権が出てくる。このヒトラーの打倒闘争を最後までやったのはキリスト教なんですよ。

今はどういう時代なのか。やっぱり資本主義はもう終わりなんです。いま安倍政権も世界も崩壊情勢です。戦争の危機に必死で対応しようとしている。だけど日本の支配階級もまた、戦争の責任を一切取らない。どうして延命できたのか。それは国鉄闘争の中に回答がある。

戦争をブルジョアジーと一緒に推進してきた。産業報国会に協力してきた。その連中が戦後もまた、日本の労働運動の指導部になってきた。見てください今。左翼と言われていた政党や、国労の中の共産党や社民党や新社会党がどうなっていますか。彼らは資本主義の危機に対して一切闘うことができない。もう労働組合の体もなしていません。

私はそのとき、動労水戸は2011年の3・11以来、国鉄分割・民営化の30年間の闘いの全総括をかけて闘い抜いています。それは「被曝労働拒否」「常磐線の全面開通絶対反対」この闘いを軸にしながら闘ってきました。

いま本気で闘うこと。全存在をかけて闘うこと。その人たちのところに民衆の支持は必ず来るといことです。そのことを日本の歴史、ドイツの歴史が示している。私たちは今、少数だと思っているかもしれない。しかしまぎれもなく、参議院選挙や国鉄闘争でつかんでいることは、労働運動や政治



の大再編情勢がきているということです。それを受けて私たちは11月に向けた挑戦をしています。

もう一点。その場合、あの相模原の事件をどう見るのか。みなさんはあの植松という人間をどう見ますか。その前の2008年のリーマンショックの時には、秋葉原で無差別殺人が起こった。ドイツでイスラム国のテロが発生し、私が「ドイツは危ないかもしれない」って言ったら、うちの組合員が「日本だって危ないですよ」って言いました。ドイツのイスラム国に立ち上がっている青年たちと、あの植松被告は同じなんです。どういうことか

と言うと、この社会の中で排除され続けてきた。彼らは排除され続けてきただけじゃない。小さい時から評価の対象にされてきた。わかりますか。評価されない人間は社会から排除されるんだ。そのとき、私たちも人を評価していませんか。

私はこの相模原事件の根底的総括として、労働組合が今までに、公務員に対して襲い掛かっている人事評価制度をぶっ飛ばさないといけない。JRも勤務評価制度で、徹底的な不当労働行為、労働組合破壊、それは同時に人間破壊として進んできた。だから我々が国鉄闘争を中心にして公務員労働運動、すべての人事評価制度、資本が人間を評価するなんてことを絶対にぶっ飛ばさないといけない。1ミリも屈してはならない。

我々は全存在をかけて、青年たちの心に届く言葉を投げなきゃいけない。我々がやらなければ絶望しかなくなるんです。

11月に向けて、民主労総の血叫びにこたえて、すべての人々の、とりわけ苦しんでいる青年たちの根底的な心の団結の声、共同性の声、そのことを伝えて11月集会の成功を勝ち取りましょう。

## 全学連第77回定期全国大会

◆京都大学4学生への「無期停学」処分粉碎!

◆改憲・朝鮮侵略戦争阻止の大学ストライキを!

9月1日(木)~2日(金) 東京・浜町区民館にて

両日とも午前9時半開始

参加費用=1000円(会場代、資料代など) ※宿泊費は除く



# 8・14集会での動労千葉・田中委員長アピール！

本当に大きな歴史の分岐点に立った8・15に、私は1点訴えたい。

それは今、韓国・民主労総の同志たちが発言をされたように、韓国の同志たちはこの9月、公共部門を先頭にして組織の総力を挙げたゼネストに立ち上がろうとしています。全面的な民営化・労働法制の抜本的な改悪をもってする団結破壊。こうしたことがいよいよ襲い掛かってくることに対して、民主労総はこの闘いを韓国社会の根本的な変革をかけた闘いだと呼びかけています。

私たちはこの10年以上、みなさんのご協力も得て、11月に国際連帯を掲げて労働者総決起集会を開き、そして韓国にも多くの代表団を送り出してきました。今年、民主労総ソウル本部から、大きな大きな提案を受けました。それは、これまでのような日韓の連帯をもう一つ本当に飛躍をさせよう、こういう提案でした。

今年は11月6日に日比谷野外音楽堂で集会を予定していますが、この11月12日ソウル、これを一つの闘いとして、民主労総ソウル本部と動労千葉と全日建連帯労組関西地区生コン支部と全国金属機械労働組合港合同、この4者で全世界に呼びかけようという提案でした。この1か月余り、このことをめぐって民主労総とずっと議論を進めてきました。恐らくは「東京ソウル11月国際共同行動」という名になるであろう共同行動の呼びかけ文は、明日（8月15日）最終的な討論をして決定され、みなさまのお手元に届くと思います。

なぜいまこういう決断をしたのか。民主労総ソウル本部がなぜこういう呼びかけを私たちにしてくれたのかを本当に真剣に考えました。まさに今、時代が本当に大きな分岐点・転換点を迎えているからだ。この分岐点・転換点に我々は立ち向かう力を持っているから、このことを確信したから呼びかけてくれたんだと私は信じています。この力を本当に発揮するためには、まず日本と韓国の労働者が本当の意味で手を結び団結を固め、全世界に呼びかけよう。なぜなら、去年の9月の戦争法の強行から、この日本で起きていること。ここに根本的な理由があると思います。

安倍政権が戦争法案を強行し、改憲を強行し、そしてこの東北アジア、朝鮮半島に戦争の危機を生み出しているんですよ。これを止めなきゃいけないんです。これを止める力はどこにあるのか。僕はたった一つだと思います。労働者自身が力を取り戻して、日本と韓国そして中国も労働者が本当に団結すること、国際連帯を結ぶことです。

僕は今年の11月6日、そして韓国11月12日の民衆総決起闘争をそういうものとして成功させたい。これは歴史を変える闘いです。私たちはいま小さいかもしれないけど、歴史を変える力を持っているんだということを、これまでのすべての殻、在り方を打破して、ここに日本の労働運動の階級的再生をか



けたい。そして憲法改悪を止め戦争を止める。そう願っています。

もう一つ。一方で支配階級は戦争を強制すると同時に、韓国でもヨーロッパでも新自由主義の崩壊が、労働者の生きることそのものを全部破壊して、暴れまわろうとしています。安倍政権が今度の参議院選挙後に掲げたのは、すべてを「働き方改革」にかけるんだっていう方針でした。「働き方改革」って何ですか。雇用も社会保障制度も、つまり人間が生きていく術を全て、そのほとんどは私たちの先輩たちが本当に長い長い闘いを経てつかみとってきた権利です。戦後の労働法制、労働基本権、社会保障制度、教育、医療、年金、これを全部破壊して資本家どもが生きるためには

「労働者なんか死んだってかまわないんだ」こういうことが戦後労働法制の抜本的な解体、労働政策の歴史的転換としてかけられてきている。これは一つの改憲攻撃です。

80万民主労総の委員長・ハンサンギョンさんは獄中に囚われ懲役の判決を受け、民主労総本部の役員はほとんどが獄中にいます。それでも民主労総の組合員は団結と旗を守って、この一年間まったく揺らぐことなくストライキを闘い続け、この9月にまたゼネストにかけ、11月には20万民衆総決起をもってパククネ政権を打倒しようと言ってるんですよ。これに応える私たちの闘いを11月6日に作りたい。とにかくすべての仲間たちが結集してほしいと思います。

戦争を止め、労働法制の改悪を止める。そのための確信を僕たちは掴んでいると思います。それは私たち自身が闘ってきた国鉄分割・民営化以来30年の闘いです。日本の労働運動がここまで解体され、現場の労働者は本当に煮えたぎる怒りを持っていながら、団結する術がない状況に置かれている。

何でこうなったんですか。それは国鉄分割・民営化で、戦後政治の総決算と言われ、「国鉄労働運動を潰せば総評も社会党も潰れる。これで立派な憲法が安置できるんだ」こういう攻撃が出発点でした。だけどここにいる多くの皆さんが私たちの闘いに本当に大きな力を与えてくれて、30年間私たちは闘い続けて、国鉄分割・民営化が国家的不当労働行為であったことを去年最高裁に認めさせました。それを土台にして私たちはこの11月から、この日本に韓国に負けないような、フランスに負けないような、アメリカに負けないような、つまり日本の労働者が持っている力をいっぺんに爆発させる労働運動の再生に向かって進む。そのために、韓国・民主労総ソウル本部からの呼びかけを何よりも大きなエールとして、国際連帯を作っていく。

戦争を止めましょう。労働法制解体を絶対に止めましょう。そして自らの職場から闘う労働運動をつくりましょう。